

平成 26 年度
学校公開研究会
美術科指導案

美術科研究主題

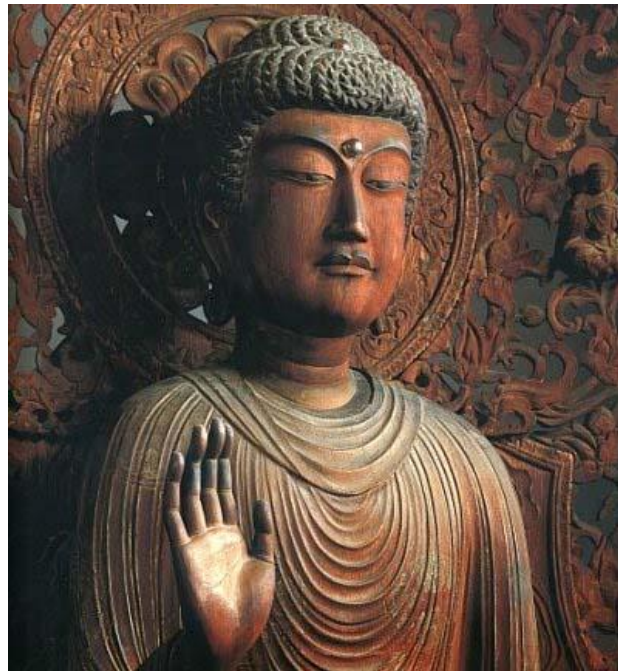
自分らしさを追い求め、心豊かに創造し表現する生徒の育成

研究授業 I

会場：美術室

「〇〇の思いに迫ろう」

～清涼寺式釈迦如来立像（西大寺蔵）の鑑賞～



岩手大学教育学部附属中学校

美術科学習指導案

日 時 平成26年6月5日（木）

公開授業 I

学 級 3年A組 男子20名女子18名

会 場 美術室

授業者 高橋 知志

1 題材名

「〇〇の思いに迫る：釈迦如来立像（西大寺蔵）」（B鑑賞）

2 題材について

（1）生徒観

今年度の授業では初めて取り組む鑑賞の時間である。本学年の生徒は、入学当初に実施したアンケートでは鑑賞の時間に対しての生徒の意識は決して高いとはいえない傾向が見られた。そこで、制作と鑑賞の内容に関連性を持たせたり、授業開始時に“ミニ鑑賞タイム”を設けてみたりしながら、生徒の「見る活動」への関心・意欲を高めていくよう、工夫を重ねてきた。結果、決して多いとはいえない鑑賞の時間を通して、作品から受ける印象を自分のことばで発表したり、感じたことを素直に記述したり発表したりできるようになってきている。また、自分の生活体験や知識と照らし合わせながら、作者の「表現活動に対するの思いや姿勢」を洞察したりすること等も通して、少しずつ鑑賞についての意識に望ましい変容が見られ始めている。

ただし、教師が提供する情報以上に自分から踏み込んで学びを深めて行こうとする姿勢がまだ十分ではなく、興味を持った作品や作家、技法等について自発的に調べたり、あるいは「私は〇〇が好き」のような、自分なりの美的価値感覚を持っていないような生徒も多くみられる。授業で取り上げる作品を能動的に鑑賞して感想を抱きことばで表現したりすることはできるが、それは50分間の授業の中で終わってしまう。授業の受け方は上手になっても、学びが深まることなく、鑑賞の領域でねらう、「鑑賞に親しみ、美術文化の継承と創造、心豊かに生きることと美術とのかかわりなどに関心をもって鑑賞する喜びを味わい、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする」態度形成までには、まだまだ至っていない生徒が多くみられる。

そういう状況を受けて、受動的な鑑賞の学習から能動的な鑑賞の取り組みになっていくよう、前述のミニ鑑賞の取り組み以外にも、表現領域の授業でも努めていろいろな作品を見せたり、掲示物を工夫したりしてきた。そして、鑑賞の授業で高めたい「感性や想像力を働かせて、よさや美しさ、作者の心情、創造力の豊かさ、自然や生活と美術とのかかわりなどを感じ取り深く味わう」「自分の価値意識をもって批評し合ったり、日本及び諸外国の美術作品の特質、美術文化や文化遺産などの特質、文化と伝統などについての理解や見方を深めたりする」力を育てていくためには、「その時間をきっかけにして鑑賞への関心が高まり興味が広がっていくような」題材の精選が必要であろうと考えた。

（2）題材観

これまでの鑑賞の授業では、主題性の強い絵画作品や作者の人間性に触れながら意見交流もしやすいような作品を取り上げることが多かったが、今回は仏像という、あえて生徒が日常的にあまり

主体的に見ることのない作品を鑑賞してみたいと考え、設定した。なじみが薄いからこそ、初発の感想に多様性が期待できると考えたこと、それをもとにした意見の交流から新しい感覚が形成されることを狙うことができると考えたからである。また、「難しい・近寄りがたい畏怖の対象」といったイメージを持ちやすい仏像という作品であるが、今回の授業を通して、生徒が今後の生活の中で出会っていくであろう様々な仏像彫刻により興味を持って向き合うことができるようなきっかけにもしたいとも考えている。

本時では西大寺の「釈迦如来像」を取り上げる。この作品は、京都の清涼寺蔵「釈迦如来立像（鎌倉時代の作）」の模刻であるとされている。

この像のルーツについて調べてみると興味深い。

紀元前5、6世紀の釈迦が存世中、古代インドのコーシャンビーの国王で熱心な仏教徒であった優填王(うでんおう)が、釈迦を思慕するあまり、釈迦の姿を彫刻させたものである。その像は『優填王思慕像(うでんおうしぼぞう)』と呼ばれ、仏教徒たちの信仰を集めることとなった。

平安時代中期の東大寺の僧・奄然(ちょうねん)は、中国の宗に留学した際に、インドから宗にもたらされていた『優填王思慕像(うでんおうしぼぞう)』を仏師に精密に模刻させ日本へ持ち帰った。奄然(ちょうねん)は、これを本尊として京都の嵯峨に清涼寺を創建し、奄然(ちょうねん)没後に弟子の盛算により寺は完成、以来、この釈迦如来立像が安置されている。

古代インドのガンダーラの仏像と似た縄を編んだような頭髪、ボディラインに張り付いた薄い衣の衣文、エキゾチックな深い彫りの顔には、当時の日本の仏像にはない異国情緒がある。また、胎内に布で造られた五臓六腑の模型が納入されていることから「生身の釈迦として造られた像」と考えられる。これを手本として、鎌倉時代には「清涼寺式釈迦如来像」といわれる模像が日本各地で流行した。

今回鑑賞するのはこの清涼寺の釈迦如来のコピー、つまり、“レプリカのレプリカ”である。

本時では「〇〇の思いに迫る」としている。美術作品であれば、〇〇に当てはまるのは作者ということになるのが通常であるが、今回の場合は複数の言葉を当てはめることができる。すなわち「像を作らせた優填王」「像を模刻して日本に持ち帰った僧・奄然」「清涼寺に安置されているこの像をさらに模刻して各地に広めた人たち」「その当時この像にふれたたくさんの人たち」「今この像を味わっている自分」といった、複数の観点からいろいろなことを考え、発表しあう時間にできればよいと考えている。

(3) 学びの自覚化について

構想の根本として(1)で述べた「授業を上手に受けることはできるが真の意味での美的興味関心が高まらずに終わる」という大きな課題がある。最終的には様々な仏像彫刻の鑑賞に対しての興味関心を持たせ高めたいと考え、学びの自覚化について構想を立ててみた。

①学習計画を通して

本時は1単位時間で終わりにするのではなく、年間を通し複数の時間をかけた仏像の鑑賞の導入の時間という位置づけにしている。仏像の見方や種類といったことについての学びが、教師から与えられた課題とならないように、生徒の仏像彫刻への興味関心を高めるような時間にしたと考えて本時を設定している。今回の鑑賞を通して、まず仏像彫刻への関心が高まり、生徒が主体的に見方や種類などについての学びを開始できるような学習計画を考えてみたものである。

②自分(達)の生活や現代の文化と比較して考えさせる

人類は古くは石器時代、紀元前2万年以上も前から「人の形をした創作物」を制作してきた。偶像崇拜が宗教のタブーであることが多く、地域や歴史的に見て広がりや発達に差異があるが、西洋の帆船のフィギュアヘッドのように、何らかの願いや思いが込められた創作物をたくさん見ることができる。現代文化においては「フィギュア」という創作領域がある。特に清涼寺式の仏像に関して言えることであるが、この作品のオリジナルである「優填王思慕像」の制作動機が“釈迦への思慕”であったとするならば、これは“釈迦のフィギュア”であるということもできるのではないか。思慕の対象である釈迦を精密に表現し、釈迦を自らの近くに感じていたいという思いを、現代文化のフィギュアにあてはめて考えてみた時、生徒は自らの生活経験を価値判断や思考のベースにして、当時の人々の心境をシミュレートしながら仏像を味わうことができるのではないかと考えてみた。

③話し合い活動を生かし、自分自身の変化を自覚させる

中学生にとって、仏像という鑑賞対象は決してなじみのあるものであるとはいえない。したがって、授業であらたまって作品と向き合った時、仏像についての予備知識が少ないがゆえに、生徒個々がどこに目を付け、どんな感想を抱くか、それこそ多様になるであろうと予想する。

この多様な意見、感想を相互に出し合って共有したり、自他の考えを比較したりすることで学びを深め、授業導入時の自分の考えや感想からそれがどう変化していったのかを実感させることを重要に考える。学習資料を工夫し、自分自身の変化がわかるような学びの記録を残せるような取り組みにしていくことで、自覚化を促していきたい。

3 本時について

(1) 主題

「〇〇の思いに迫る」

(2) 指導目標

感性や想像力を働かせて、よさや美しさ、作者の心情、創造力の豊かさなどを味わわせる。また、自分の価値意識をもって批評し合ったりすること等を通し、日本の文化と伝統などについての理解や見方を深めさせる。

(3) 評価規準

美術への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none">・鑑賞する喜びを味わい、自然や生活と美術との深いかわりを理解し、美術を愛好し心豊かな生活を創造していこうとする。・自然、美術作品や生活の中の造形、美術文化や文化遺産などを鑑賞し、そのよさや美しさ創造力の豊かさなどを感じ取り味わい、美術を愛好していこうとする。・美術文化や文化遺産などに対する関心を高め、そそれを尊重し理解を深めようとする。	<ul style="list-style-type: none">・感性や想像力を働かせて、自分の価値意識を大切にしながら美術作品や文化遺産等のよさや美しさなど感じ取り味わったり、批評し合ったりする。・文化や伝統として受け継がれてきた独自の美意識や創造的精神などについて理解し、ものの見方や感じ方を深める。

(4) 指導の構想

本学級の生徒について、これまでの鑑賞の時間の取り組みをふり返ってみると、作品を見た感じで「色調が暗いので〇〇な感じを受けた」とか「〇〇が描いてある（ない）ことで〇〇な印象」のように、共通事項をもとにした感じ方をし、それを短い文章などに記述できるようになってきている。2年次の後期には作品から作者の心境や、制作活動に対しての姿勢など、作者の人間性や生き方に迫っていくような時間ももつことができ、入学当初に抱いていた鑑賞の取り組みへの、学習者としての姿勢に向上が見られる。

ただし、プリント等に考えを記述することはできても発表することに消極的な生徒が多く、多様な意見や考えがなかなか全体で交流できないまま授業が終わることが多い。また、クラスメイトの発表から刺激を受けて自分の考えを深めたりすることがまだ十分にできず、他者の発表に安易に同調したり、自分の異なる考えを発表しなかったりといった現状がみられる。

そこで、授業のスタートラインに立った時点での予備知識等の差がほぼないであろうと思われる「仏像」という題材を選択し、初発の段階で多様な感想を出すことで交流のきっかけをつかんでいきたいと考えた。これは2年前の本校美術科の研究でも述べた、「引き出し、広げ、交流し、深めて、個に返す」という授業展開の構想と考えを同じくする。さらに今回は、学びの自覚化という側面からも「個に返したのちの変容を自覚する」というところまで追求させたい。

本時では清涼寺式の仏像を鑑賞する。なじみの深いものとはいえない対象であるが、本作品を見ると、着衣の形など他の仏像とは違った特徴があることに気づくことができる。また、他の清涼寺式の仏像と並べてみると、顔立ちがそっくりであることにも気づく。

喩が適切ではないかもしれないが、「スターとファンの関係」に近いものがあるという理解もできる。関心のない者にとってはアイドルグループのメンバーやキャラクターの顔と名前が一致しないが、マニアはその一人ひとりの違いを識別できるのと同じで、仏像にも個性やその見分け方、特徴がある。そのような観点からいうと、この清涼寺式の釈迦如来は相当なこだわりを持ってリアルに表現された「生身の釈迦」である。

原型となっている清涼寺の釈迦如来立像の出自を紹介しながら、鑑賞を進めるうちに「釈迦への思慕」という思いが強いものであること、仏像というものが当時の人々にとってかなり身近な存在であったことに気づかせたい。

授業の導入では生徒が持っている仏像への印象（むずかしくてよくわからない等）を聞きながらも、思い切って問いをぶつけてみたい。学習課題を「〇〇の思い」とするが、当てはまる言葉はこの段階では「作者」ということになるだろう。

展開の段階では、その他の清涼寺式の仏像の出自を紹介した上で学習課題に迫っていく。この作品がいわゆる「レプリカ」であることから、〇〇にあてはまる言葉が複数あることに気づくことで、違った観点でこの作品（群）を見ることを進めていきたい（広げる段階）と考える。また、途中でそれぞれのグループでの話し合いを交流させ、視点や観点を広げてやる時間をとりたい。

終末の段階では、学習シートに記録されている記述をふり返ることで自分の考えの変化や深まりを実感させたい。さらに、新しい興味を持って仏像彫刻の鑑賞を進めていくことへの関心意欲を形成し、それを共有することで授業のまとめとしていきたい。

(5) 本時の展開

段階	学習活動及び学習内容	時間	■学びの自覚化とのかかわり
導入	<p>1 課題設定</p> <p>学習課題：「〇〇の思い」に迫っていこう</p> <p>◎「〇〇」にあてはまりそうな言葉はなんだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「作者」ではないか <p>◎作品の提示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西大寺の釈迦如来立像（鎌倉時代） ・像高167cm <p>◎これはなんだろう？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仏像である <p>◎どうして仏像だと思ったのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書やお寺で見たことがある ・ポーズが仏像っぽい ・バックの飾り <p>◎「仏像」と聞いてどんなことを思い浮かべるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不思議な感じがする ・見方などがよくわからない ・なじみがない 	5	<p>※スクリーンに、実寸に近い大ききで投影する。</p> <p>■仏像についての認識の自覚 ※なじみの薄い対象で漠然とした知識しか持っていないが、自分だけではないことを確認する。</p>
	<p>「仏像に秘められた何か」を考える</p> <p>◎作品の提示</p> <p>清涼寺式の他の作品群を示し、比較して考える 「これらの仏像同士にどんな関係があるのだろうか」</p> <p>2 グループによる活動①……………「引き出す取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全部似ている ・顔がそっくり ・もしかしたらコピー品ではないか ・モデルがいる？ <p style="text-align: right;">【5分】</p> <p>◎作品についての補足説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清涼寺の釈迦如来立像についての説明 ※生身の釈迦の姿を表現したものであること ※清涼寺式の仏像が広く流行したこと ※オリジナルの作者は、不明であること <p style="text-align: right;">【5分】</p> <p>「〇〇の思い」の〇〇にいろいろあてはめて、考えを広げよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ※どんな言葉があてはまりそうか、広く発言させる ●オリジナルの像を作らせた人 ●コピーを作って日本に持ち帰った人 ●さらにそのコピーを作ろうと思った人たち ●その他 <p>3 グループによる活動②</p> <p>※出た話し合いの観点に基づいて考察する ←</p> <p style="text-align: right;">【5分】</p> <p>4 グループによる活動③……………「広げる取り組み」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループの話し合いの様子を交流する <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ●一人が残る ●他の2～3人はバラバラになって他グループの席に散る ●残っていた人から順番にそれぞれ自分のグループの話し合いについて説明する ●自分のグループに戻り、得てきた話を発表しあう </div> <p style="text-align: right;">【15分】</p>	30	<p>※自分の生活経験や知識から想像し自分なりの考えを持ち発表する。</p> <p>※タイマー表示</p>
終結	<p>5 学習のまとめ……………「個に返し深める」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合った内容から個人で考えをまとめる ※仏像と聞いて何を思い浮かべるかという最初の質問 ※誰のどんな思いに迫っていったか ・ふり返る ※数人に発表させ、共有を図る <p>◎必要に応じ教師からの補足説明と授業の評価をする</p>	15	<p>■他者の考えと比較しながら自分の考察を広げる。</p> <p>■仏像の鑑賞についての関心意欲</p> <p>※見方がわかってくると楽しくなる</p>

美術資料
字の記録

発見の鍵

年組番
氏名

学習課題

「の思いに迫る。」

①

②

③

④

⑤

……の思い

⑥

MEMO:

まとめ

3. 振り返り



生徒提示資料②



西明寺（滋賀県）の釈迦如来立像



西大寺（奈良県）の釈迦如来立像



法来寺（山形県）の釈迦如来立像



称名寺（神奈川県）の釈迦如来立像

